

令和2年度（2020年度）

（令和2年7月1日～令和3年6月30日まで）

事業計画書

一般財団法人 国際協力推進協会

1. 太平洋島嶼国開発協力事業

- (1) 太平洋諸国・大学生招待計画
- (2) 太平洋諸国・記者招待計画
- (3) 太平洋諸国・リーダー招待計画
- (4) 太平洋青年研修
- (5) 太平洋諸国・環境セミナー
- (6) APIC・MCT 協力事業（ミクロネシア連邦・チューク州水タンク設置）
- (7) APIC・MCT 協力事業（大学院生支援）
- (8) 上智大学地球環境学研究科との環境に関するシンポジウム開催
- (9) ナンマトル遺跡保存支援事業
- (10) ミクロネシア連邦写真展(於、島根県海士町)
- (11) 高校生スタディーツアー支援
- (12) ザビエル高校生招待計画
- (13) 次年度以降の事業調査

2. 日・カリブ友好協力事業

- (1) 西インド諸島大学・大学生招待計画（太平洋と同時実施）
- (2) カリブ諸国・記者招待計画（太平洋同時実施）
- (3) カリブ諸国・リーダー招待計画
- (4) 西インド諸島大学・学長招待計画
- (5) 上智大学地球環境学研究科との環境に関するシンポジウム開催
- (6) カリブ青年研修
- (7) 次年度以降の事業調査

3. 国際協力に関する講演事業

- (1) APIC 早朝国際情勢講演会
- (2) 国際協力懇話会

4. 留学生奨学金事業

事業の概要

1.太平洋島嶼国開発協力事業

太平洋島嶼国との信頼関係を構築し、友好関係の一層の推進を図るため、「太平洋島嶼国開発協力基金」を活用して、太平洋島嶼国の環境・エネルギー・観光の分野における開発協力事業として、外務省アジア大洋州局大洋州課と協議も行い、次のプロジェクトを実施する。

(1) 太平洋諸国・大学生招待計画【継続】

太平洋島嶼国の大学生を我が国に招待して、短期間の研修を行う。本年度は2カ国（フィジー共和国1名、ソロモン諸島1名）の大学生計2名が上智大学の冬季プログラムに参加し、日本についての基礎講義を受講するとともに、環境・エネルギーなどの関連施設の視察を行う。実施時期は令和3年1月を予定。西インド諸島大学・大学生招待計画(※)と同時に実施する。なお、ミクロネシア3カ国については、今年度から各短期大学からの学生に代えて、後述(11)のザビエル高校生の招待計画を実施予定。

(2) 太平洋諸国・記者招待計画 (APIC Journalism Fellowship Program)【継続】

太平洋島嶼国の有力記者を招待して、我が国の環境保護・防災・エネルギー利用などについて理解を深め、もって我が国の現状についての広報を行ってもらう。本年度は、記者2名(選考中)を招聘して、環境・防災・エネルギー関連施設の視察を行う。本件招待計画については、諸外国の記者招待に知見のある日本フォーリン・プレスセンターの協力を得て実施する。実施時期は2020年10月を予定。カリブ記者招待計画(※)と同時に実施する。

(3) 太平洋諸国・リーダー招待計画【継続】

昨年度はミクロネシア連邦、サモア独立国から合計7名を招待し実施した。本年度も太平洋島嶼国のリーダーを我が国に招待して、我が国のリーダーとの会談を行うとともに、環境・エネルギー・観光に関連する視察を通じて、我が国についての理解を深める。本年度は、昨年度コロナの影響で中止延期となったサモア独立国副首相兼環境相、ミクロネシア3カ国若手リーダーに加えて、ミクロネシア連邦等のリーダーを年度内に約8名を招待予定。

(4) 太平洋青年研修【継続】

太平洋諸国の将来を担う可能性のある若手実務者を我が国に招待し、地方自治体を中心に研修を行う。本年はサモア独立国とミクロネシア連邦からの招待を予定している。

サモア独立国については、昨年度に海士町職員とAPIC職員が訪問し事前調査を実施したところであり、その結果を踏まえて海士町において研修を行う予定であったが、新型コロナウイルスの世界的な蔓延の影響で延期となった。島根県海士町は島根県沖に浮かぶ人口約2400人の離島であるが、積極的に働き手の誘

致や「教育魅力化プロジェクト」による島外高校生の誘致を行っており、島全体で町おこし・コミュニティ開発に取り組んでいる。研修では、コミュニティ開発・教育・環境・観光分野等における実践的かつ分野横断的な能力を養成することが期待できる。

ミクロネシア連邦については、現地環境団体職員等と候補者について協議中であるが、カリブ青年研修(※)との合同で、鹿児島県大崎町でのごみ分別処理研修を予定している。

APIC は参加者を日本に招待する際に発生する経費及び研修地である自治体への渡航費や現地での滞在費・研修費を負担する。研修の企画運営は海士町に依頼しコーディネート料を APIC が負担する。

(5) 太平洋諸国・環境セミナー【継続】

我が国からオピニオン・リーダーを太平洋島嶼国に派遣して、我が国が取り組んでいる環境問題等についての講演を行うと共に、その機会を利用して対日理解を深める。昨年度に、上智大学大学院地球環境学研究科教授 2 名をミクロネシア連邦チューク州に派遣して、同国政府および日本大使館などの協力を得て環境に関する講演会を実施予定であったが、新型コロナウイルスの影響により本年度に延期となった。担当理事が同行し、APIC の活動についての広報活動、ひいては環境・エネルギー・観光についての日・ミクロネシア協力を促進する。環境関係者のネットワーク構築に貢献するものと考えられる。実施時期は令和 2 年 9 月を予定。

(6) APIC とミクロネシア自然保護基金 (MCT) との協力事業

ミクロネシア連邦チューク州貯水タンク設置支援【継続】

パラオ共和国・ミクロネシア連邦・マーシャル諸島共和国・グアム・北マリアナ諸島の 3 カ国・2 地域は、生物多様性を保全し持続可能な自然資源の利用を図るため、「ミクロネシア・チャレンジ」という共通の環境政策を策定し、環境保護のための資金を積み立てており、この資金の管理を委託されているのが国際環境財団である Micronesia Conservation Trust (以下 MCT) で、APIC は、2014 年 10 月に MCT との間で連携協定を締結し、以来、平成 27 年度はミクロネシア連邦ポンペイ州における豚舎の排泄物処理案件、平成 28 年度は同州離島における貯水タンク案件、昨年度は MCT を通じて Chuuk Conservation Society の海洋保護活動を支援してきている。

今年度は、現在、深刻な干ばつに悩まされているミクロネシア連邦チューク州ウエノ島の状況に鑑み、MCT を通じてウエノ島に貯水タンクを敷設しようとするものである。ミクロネシア連邦チューク州の州都があるウエノ島で給水の水源となっているのは深井戸で、井戸水を電動で汲み上げて給水しているが、昨年 12 月よりほとんど降雨がなく、水脈が枯れてきたため夜間の断水（午後 10 時から翌朝 8 時まで）を余儀なくされている状況にある。また、浅井戸や川の水を利用している住民は川が干上がったため、飲料水がない状況にある。さらに、山の上の住民は雨水を貯めて利用しているが、降水がないため水が枯渇状況となっている。APIC が支援しているザビエル高校も山の上にあるため例外ではなく、水不足により学校閉鎖となり、寮生は自宅に戻っている状況にある。過去に MCT 経由でポンペイ州の離島に貯水タンクを敷設し住民に感謝された事例があるので、同様に、今後の水不足に備えて貯水タンクの敷設を行うものである。併せて、Chuuk Women Council (CWC) が住民向けに貯水管理と衛生に関する研修と啓蒙活動の支援を行う。

(7) APIC と MCT との協力事業 大学院生支援【継続】

MCT との協力事業の中で、2017 年には、長期的に環境に携わる人材育成も意義ある支援であるとの観点から、上智大学と協議を行ったところ、大学院地球環境学研究科で受け入れ可能とのことであったので、APIC・MCT 留学制度を創設することとなった。この制度により、MCT から推薦があった者に対して高度な教育の機会を与えることが可能になり、ミクロネシア地域の国籍・市民権を有し、環境の分野に関心のある若者が最大 2 名、上智大学地球環境学研究科のあん・まくどなど教授の指導の下で学ぶことができるようになった。2017 年 9 月からミクロネシア連邦チューク州とヤップ州より 2 名が初めて入学し、2019 年に卒業した。さらに、この制度を確実なものにし、継続的にミクロネシア地域の将来を担う人物を育成するため、2018 年 3 月 22 日に上智大学・MCT・APIC 間で基本協定が締結され、同年 9 月にマーシャル諸島共和国マジュロ、ミクロネシア連邦コスラエ州より 2 名、2019 年 9 月にはパラオ共和国コロール州、ミクロネシア連邦ポンペイ州より 2 名が入学した。2020 年 9 月にはミクロネシア連邦ヤップ州とマーシャル諸島共和国から入学予定である。

(8) 上智大学地球環境学研究科との環境に関するシンポジウム開催【継続】

上智大学との連携協定に基づき、これまで環境セミナーを開催してきたところであるが、これらの国や環境関連団体とのネットワークを構築することとし、上智大学に 2019 年 12 月に設立された Sophia Island Sustainable Unit との連携を強化するもの。カリブからの参加者も別途カリブ案件として計上。ミクロネシア (MCT) 等からの参加者の旅費、滞在費、会議費等を負担。実施時期は本年末の予定。(上智大学と協議中)

(9) ナンマトル遺跡保存支援事業【継続】

ユネスコ世界遺産に登録されたミクロネシア連邦ポンペイ州のナンマトル遺跡について、ナンマトル遺跡の第一人者である片岡修上智大学客員教授等の協力を得て遺産保存を支援しようとするもので、30 年度にはミクロネシア連邦政府公文書・文化歴史保存局の文化財担当官 Augustin Kohler 氏にカンボジアにある上智大学アジア人材養成研究センターを訪問してもらい (片岡教授が同行)、世界遺産の保存についての知見を得てもらった。昨年度は、片岡教授に会報誌で執筆して頂いたナンマトル遺跡に関する記事をまとめて日本語と英語の冊子を作成した。

本年度については、日本政府が草の根無償で支援予定のビジターセンターの建設の起工式が 2019 年 5 月 24 日に行われたことを受けて、工事の進捗具合を見つつ案内板の製作を実施する予定。

(10) ミクロネシア写真展【継続】

記者招待計画のプログラム・コーディネーターを依頼している写真家・記者のフロイド・タケウチ氏がミクロネシア連邦のチューク環礁で撮影した写真を APIC に寄付してもらい、これまで上智大学、津田塾大学、JICA 研修センター等において写真展を開催した。一昨年度も 2018 年 11 月 6 日から 12 月 6 日までの 1 か月間に東洋大学にて、また、11 月 2 日に開催された日本・ミクロネシア連邦外交関係樹立 30 周年記念式典に合わせて写真展を開催した。本年度は APIC が連携協定を結び、ミクロネシア連邦のホストタウンにもなった海士町にて開催する予定。

(11)高校生スタディーツアー【新規】

上智福岡高校が生徒をミクロネシア連邦チューク州に派遣し、ミクロネシア連邦と日本の歴史的つながりについて理解を深めさせるとともに、現地において環境問題改善のための取り組みに参加させることを計画しているため、APICとして若い世代の育成の一環として側面的に支援するもの。生徒がホームステイやザビエル高校への訪問を通して異文化理解を促進することを支援。「ザビエル高校生招待計画」と合わせ、日本とミクロネシア連邦の高校生による相互交流を実現するもの。

(12)ザビエル高校生招待計画【新規】

APICが奨学金制度で支援しているザビエル高校の生徒4名と引率教職員1名を招待し、上智大学でのキャンパスツアーを実施するほか、上智福岡高校及び隠岐島前高校を訪問させて、若い世代間での絆の醸成を図る。約一週間の滞在中、招待生徒は日本を多角的な視点からとらえ、日本文化や伝統、歴史に対する理解を深めることとなる。

東京滞在時には、上智大学にてキャンパスツアーを実施し、同大学に対する理解を深め、進学イメージをつかむ。さらに現在在学中のAPIC奨学生との交流の機会を設け、大学生活に関するより具体的な質問や出願にかかる不安等の解消を図る。

東京滞在後は、2グループに分かれ、それぞれ上智福岡高校、隠岐島前高校を訪問し、さらなる交流を通して異文化理解の深化を図る。この際上智福岡高校には生徒2名及びザビエル高校からの引率者が同行する。隠岐島前高校に派遣するグループは生徒2名及びAPIC職員が同行するものとする。それぞれの高校での研修時には、招待学生は授業参加や日本人高校生との学校生活、各学校主催の行事に参加し、若い世代間の絆の醸成を図るとともに日本の文化、伝統、歴史等に対する理解を深める。

(13)次年度以降の案件調査費

次年度以降の事業の発掘や検討のための調査費用（予備費）として100万円を計上する。

2. 日・カリブ友好協力事業

カリブ諸国の信頼関係を構築し、友好関係の一層の推進を図るため、「日・カリブ友好協力基金」を活用して、カリブ諸国の環境、エネルギー及び観光の分野における開発協力事業として、外務省中南米局カリブ室、カリブ共同体（カリコム）事務局等とも協議の上、次のプロジェクトを実施する。

(1) 西インド諸島大学・大学生招待計画【継続】

西インド諸島大学の各校（ジャマイカのモナ校、トリニダード・トバゴ共和国のセント・オーガステイン校、バルバドスのケープヒル校）の大学生計4名を我が国に招待して、上智大学において日本についての基礎講義を受講させるとともに、環境、エネルギーなどの関連施設の視察の機会を与える。実施時期は2021年1月を予定。太平洋諸島大学生招待計画と同時に実施する（前述）。

(2) カリブ諸国・記者招待計画【継続】

本年度は、ジャマイカとバルバドス（選考中）から2名を招待し、環境・防災・エネルギー関連施設の

視察を行い、我が国の環境保護、防災、エネルギー利用などについて理解を深め、我が国の現状についての広報を行う。外務省及び日本フォーリン・プレスセンターの協力を得て実施するものである。実施時期は2020年10月を予定。太平洋記者招待計画と同時に実施する（前述）。

(3) カリブ諸国・リーダー招待計画【継続】

平成28年度に、ジャマイカ、トリニダード・トバゴ共和国、バルバドス及びカリコム事務局の若手リーダーを、平成29年度はジャマイカの教育大臣を招待した。平成30年度は、外務省・大使館と調整を図ったが訪日時期の調整ができずに、外務省が招聘したゴンザルベス・セントビンセント及びグレナディーン諸島首相の歓迎夕食会の開催にとどまった。昨年度は、カリコム海上保安関係者（トリニダード・トバゴ共和国、バルバドス）、バルバドスのキング・スポーツ大臣（同行1名）、ジャマイカのデイビス外務・貿易省二国間関係局次長の3組6名を招待できた。今年度は現地大使館トリニダード・トバゴ共和国、ハイチ共和国、ベリーズからの招待を検討している。

(4) 西インド諸島大学・副総長・学長招待計画【継続】

西インド諸島大学(UWI)の副総長（実質的なトップ）及び各分校(ジャマイカ、トリニダード・トバゴ共和国、バルバドス)学長3名を同時に招待する予定であったが、日程の調整が難しいため、順次実施することとし、平成28年度にケープヒル校（バルバドス）学長、平成29年度にセント・オーガスティン校（トリニダード・トバゴ共和国）学長の招待計画が実現した。平成30年度には、UWIの副総長およびモナ校(ジャマイカ)学長の招待を計画、令和元年度もモナ校の学長及び副学長の招待を実施すべく調整を図っていたが、それぞれ実現できなかった。引き続き調整を行い、我が国大学との意見交換会、環境、エネルギー、観光に関連する視察を通じて、我が国についての理解を深める。実施に当たっては、外務省及び上智大学と協力を行う。実施時期は、未定。

(5) 上智大学地球環境学研究科との環境に関するシンポジウム開催【新規】

太平洋島嶼国開発協力事業の(11)と同様のもの。

(6) カリブ青年研修

カリブ諸国の将来を担う可能性のある若手実務者を我が国に招待し、地方自治体を中心に研修を行う。本年はトリニダード・トバゴ共和国の若手実務者に、鹿児島県にある大崎町にてごみ処理についての研修を実施する予定。大崎町がオリンピックのホストタウンということもあり、平山駐トリニダード・トバゴ共和国大使からも大崎町へ依頼を行い、実施することとなった。また、平成30年度において八王子市が実施するJICA草の根協力事業に対する支援としてAPIC役職員が同行しミクロネシア連邦チューク州の実務者の研修先としても訪問済であり、日本一ごみの分別ができている先進的な取り組みを行っているということも研修先として適していると判断したものである。太平洋青年研修のミクロネシア連邦チューク州からの参加者と合同で実施する予定。

(7) 次年度以降の案件調査費

次年度以降の事業の発掘や検討のための調査費用として100万円を計上する。

3. 国際協力に関する講演事業

(1) APIC 早朝国際情勢講演会【継続】

本件早朝講演会は、外務省幹部、在外大使による時局の日本の外交課題や激動する国際情勢などについて質の高い内容の話題を提供する講演会として、参加者から評価が高い。本件講演会は APIC が諸活動を展開する上で欠かせない事業であり、今後とも会員の期待に沿えるように毎月 1 回(8 月を除く)企画して行く。

(2) 国際協力懇話会【継続】

同様の外交課題・国際情勢等をテーマに小規模の懇話会(東京、及び、地方)を実施する。

4. 留学生奨学金事業【継続】

ザビエル高校(ミクロネシア連邦チューク州)には、ミクロネシア連邦のみならず、パラオ共和国、マーシャル諸島共和国の最優秀の生徒が入学する。卒業生には、ミクロネシア連邦モリ元大統領を始めとしてそれぞれの国のリーダーを輩出している。APIC が上智大学と協力して開始した本「留学生制度」については、3 カ国の首脳の間で極めて高い評価が与えられている。

上智大学・ザビエル高校・APIC 間で締結した留学生協定に基づき、2014 年 9 月から 1 名、2015 年 9 月に 1 名、2016 年 9 月に 1 名が入学した。2017 年度には従来の協定に変更を加え、1 年間に最大 2 名が留学できるようになった。その結果、2017 年 9 月から 2 名、2018 年 9 月に 2 名が入学した他、2014 年に入学した 1 名が卒業したことにより、当制度の初めての卒業生を輩出した。2019 年 9 月にはパラオ共和国から 1 名が入学することが決定していたが、諸般の事情で入学後、1 学期間の休学をすることとなった。2020 年の 9 月にはミクロネシア連邦ポンペイ州とパラオ共和国のコロール州からそれぞれ 1 名が入学する予定である。

ザビエル留学生は、日本での留学中に上智大学で勉強に励むと同時に、広島での上智大学ソフィア会の年次大会や佐原大祭(千葉県香取市佐原)に参加するなど課外活動も経験している。本年度も、昨年度と同様、島根県隠岐郡海士町を訪問し、日本の歴史・文化・社会についての知見を広めることができるよう支援をしていく予定。今後募金活動を積極化するとともに、留学生に対する生活費等の支給を含め留学が充実するよう支援を行っていく。(なお、APIC は旅費、生活費を負担、上智大学は学費、寮費を負担。)